

平成30年度

(仮称) 新田地区複合公共施設 整備・活用に向けた

ワークショップ開催等業務委託

報告書

平成31年 2月

太田市 企画部 企画政策課

目次

I. 新しい太田つくる会議（ワークショップ）について

1. 目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3P
2. 基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3P
3. 名称・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3P
4. 開催プログラムの概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5P
5. 告知・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10P
6. 開催概況の報告
 - (1) 第一回（綿打地区）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11P
 - (2) 第二回（生品地区）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16P
 - (3) 第三回（木崎地区）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22P
7. テーマ別 主要意見のピックアップ・・・・・・・・・・ 27P
8. まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29P

II. 市民アンケートについて

1. 概要と結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30p
2. その他の意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38p

「新しい太田つくる会議」について

1. 目的

今回のワークショップは、（仮称）新田地区複合公共施設の整備・活用に向けたワークショップであり、整備・活用について幅広く市民からの意見を吸い上げることにあると考える。よって、年齢・性別・職業を問わず、市民がこういう複合施設が欲しいという意見を闊達に出せるオープンな場にするのが肝要であると考え。そのためには、幅広い年齢層にワークショップに参加してもらい、多種多様な意見を聴取することを目的とした設計にする。

2. 基本方針

「自分たちで自分たちの『まち』を創る」
「大事な子どもや、孫が大人になった時の施設の在り方を想う」
をワークショップの基本コンセプトとする。

3. 名称

「新しい太田つくる会議」という名称には、以下三点の意図を込めています。

- 1) 【（仮称）新田地区複合公共施設の整備・活用に向けたワークショップ】という、堅苦しいイメージからの脱却。これから出来る未来に向けた「ワクワク感」や「期待値の創造（想像）」。
- 2) 幅広い年齢層（特に 20-30 代のこれから所帯を持つ層や子育て世代といった、これから太田市の暮らしの中心になっていく層）への参加を促す為に「会議」という、仲間同士で“意見出し”をする場や、“相談”の場を連想させるワードを選定。
- 3) 市西エリアでの新たな拠点づくりを目指し、「新」という文字を使用したネーミング。



「新しい太田つくる会議」ロゴの説明：

- 1) ロゴではパステルカラーを使い、女性を中心に色々な世代に受け入れられる“親しみ易さ”や、今回のワークショップで拭きたい“堅苦しさ”の脱却をイメージしている。
- 2) 「新」という字は、従来のフォントにはデザイナーの手作りフォントとなっており、文字通り【新しいモノが出来る・それを創る】という、今回の過程を表現している。

4. 開催プログラムの概要

- ・ 対象者：年齢・性別・職種を問わず、「太田市」に何かしらの繋がりをお持ちの方
 - 現在、太田に住んでいる
 - 地元が太田市である（現在、太田には住んでいない）
 - 職場が太田にある（現在、太田には住んでいない）
 - 太田の学校に通っていた（小中高大いずれか）
 - その他（太田に友人がいる・・・等）
- ・ 定員：各回 20 名程度
- ・ 開催場所：建設場所である新田地区をイメージしながらのワークショップとするため、地区を構成する【綿打・生品・木崎】で開催



綿打地区：片山家住宅（主屋）

旧溜池村の名主を勤めていた家。
現在、片山家にある「主屋」「長屋門」「北の蔵」「南の蔵」「井戸屋」「下の便所」の六棟の建物が登録有形文化財に登録されている。
家と敷地を解放して行き、「文化財ロック」という音楽フェスを開催している。



生品地区：反町館跡多目的集会所

新田義貞公が居を構えたとする反町館跡内にある多目的集会所。



木崎地区：しげるテック株式会社 社員食堂スペース

スバルの企業城下町の一旦を担う“しげる工業”のグループ企業。創業 60 周年を迎える木崎地区を代表する老舗企業。

- ・ テーマ

「多くの人を訪れ、集うことができる魅力的な施設にするためには、どのようなものが必要か？」未来の太田のため、楽しいアイデアを考える。

- ・ ゲストと講演内容

綿打地区：片山英弥様（写真左、片山住宅家主）、片山昇平様（写真右、家主息子）
講演内容：綿打地区の歴史と「文化財ロック」の紹介



生品地区：塚越澄夫様（反町 前区長）

講演内容：反町館跡の歴史について



木崎地区：田村博様（田村工業株式会社 代表取締役）

講演内容：祭りで培われた木崎人の DNA



- ・ タイムテーブル（ワークショップは各回共に 13:00-16:00 の間で実施）

13:00-	挨拶
13:10-	ゲストトーク
13:30-	イベント趣旨の説明・複合施設とは？
14:00-	休憩（15分）
14:15-	ワークショップ進め方の説明
14:25-	ワークショップ
15:10-	グループ発表
15:20-	全体質疑応答
15:30-	終了（希望者は、各会場の見学）

・ ワークショップの進め方について

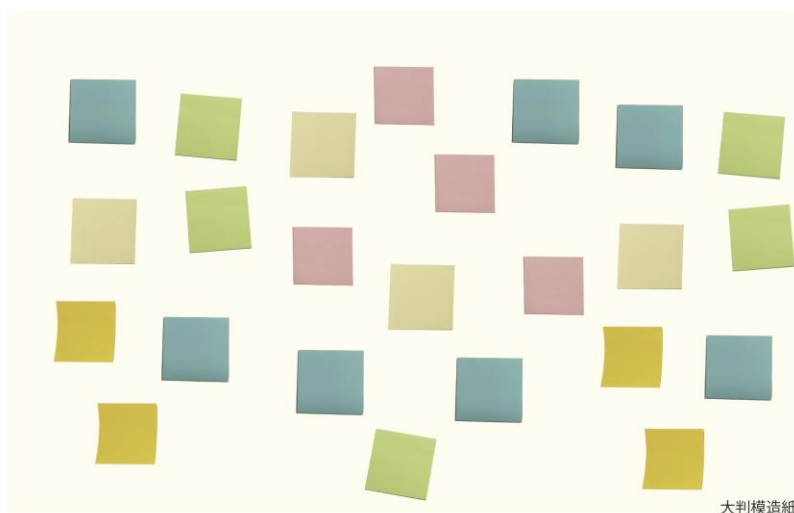
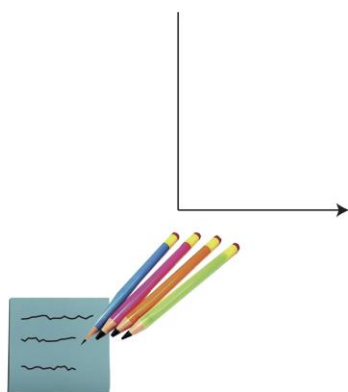
- 1) 参加者の中からランダムに 4-5 名のグループを作成し、テーブルに【模造紙・ポストイット・建設予定地の周辺地図（A1 サイズ）】を配置。
- 2) 「遊ぶ・学ぶ・くつろぐ・動く・食べる」の 5 つのテーマに分かれたポストイットに【複合施設の中でこんなことが出来たら良い！】という希望を書いていく（所要時間：20 分）
- 3) グループ内ディスカッション
似たようなアイデアをグルーピングしたり、アイデア同士をくっつけて新しいアイデアを創る（所要時間：10 分）
- 4) 他グループアイデアの視察（所要時間：10 分）
- 5) 発表（所要時間：10 分 ※各グループの発表は 1 グループ/3 分程度）

各テーブル種類分けをして並べて置く



- 遊ぶ/学ぶ/くつろぐ/動く/食べる の 5 種類で色分け
- 文字だけじゃなく絵をかいてもOK
- テーブルごとに模造紙にどんどん貼っていく

思いついた内容の種類のポストイットをとって貰おう



大判模造紙



5. 告知

告知にあたっては、フライヤーを制作すると共に、【市内のカフェや施設への設置・各種 SNS での告知、開催レポートのアップ・alt+ota（メディア）への掲載】を行い、関心層への訴求と参加募集を募った。

市内フライヤー設置箇所：10ヶ所程度

Facebook・Instagramからのリーチ数：3,996人



6. 開催概況の報告

(1) 第一回（綿打地区）

会場：片山家住宅

参加人数：13名（ワークショップは【3つのグループ】に分けて実施）

ゲスト：片山英弥さん（片山家家主）、片山昇平さん（文化財ロック主催）

トークテーマ：「片山家住宅と綿打の成り立ちについて」

「文化財ロックについて」

タイムテーブル：

13:00-	挨拶（担当：エーアイラボオオタ押田）
13:10-	ゲストトーク（英弥さん・昇平さんクロストーク）
13:30-	イベント趣旨の説明・複合施設とは？ （担当：エーアイラボオオタ亀井）
14:00-	休憩（15分）
14:15-	ワークショップ進め方の説明 （担当：片山昇平）
14:25-	ワークショップ
15:10-	グループ発表
15:20-	全体質疑応答
15:30-	終了（希望者は会場内の見学）

▶ゲストトーク内容の抜粋

（「片山家住宅と綿打の歴史について」）

- 主屋の建築は、明治6年（1873年）。
- 片山家は英弥さんで13代目。
- 新田開発等の功績により苗字帯刀を許され、当主は代々興惣右衛門（よそううえもん）という名を襲名する様になっている。
- 片山家住宅は、綿打村誕生まで4ヶ村（溜池村・上中村・権右工門村・大村）の戸長役場の役割を担っていたと言われている。

（文化財ロックについて）

- 始まりは2012年。「実家をもっと色んな人に知って貰いたい」という昇平さんの想いから、まずは内輪のBBQイベントから始まったのが会のスタート。
- 参加者の8割が「東京から来ている」と全体構成の中で、もっと広い定義での「群馬」を知ってもらおう方が良いのでは？と思い、片山家住宅を会場として「群馬」を知ってもらおうイベントへと変化（第3回目以降）
- イベントを通じた学びとして、地域のイベントは【細く・長く】を意識する。決して、大きくなくても継続することで地域で得られる信用もある、と感じている。

▶ワークショップ

ワークショップは、以下の流れで実施。

項目	時間(分)	内容
アイデアを書き出す	20	アイデアを書き出す作業。 複合施設で「こんなことが出来たら良い」を5つのテーマに分けて書いていく。
チーム内 ディスカッション①	10	書き出したアイデアをチームで話し合う作業。
他グループの アイデアを確認	10	他グループがどんなアイデアを出したのか、1グループ3分程度の時間で確認。
チーム内 ディスカッション② 発表者決め	10	他グループの意見を見て、再度感じたことをチーム内で話し合う時間に合わせて、自分たちの意見をまとめ、発表の準備に入る。
発表	10	グループから代表者を決めて発表（1グループ3分） ・ 発表者の自己紹介 ・ グループアイデアの発表 （出たアイデアの抜粋・議論の中で特に盛り上がった内容の紹介等） ・ 司会からのコメントバック

グループA

グループB

グループC

動く

- ・子どもとお年寄りが働ける場所
- ・フリーマーケット
- ・地場企業のPRブース
- ・何かみんなで作れる仕事（単純作業）があって、そこにふらっと参加できる（ボランティア体験）
- ・地元の人達を雇用して地元の食材を使った料理を提供するレストランを作る

- ・フットサルコート
- ・自然の中のジョギングコース
- ・散歩・ジョギング中外コース
- ・保健センターや行政センターの集約は今より便利になるように集約して欲しい
- ・タクシーやバスがうまく乗り入れられる様にして欲しい

- ・ジムがあるといい
- ・劇場がほしい
- ・歩者分離が必要（車のことを気にせずに歩ける場所）
- ・ジョイフルとの行き来が出来る

遊ぶ

- ・自由に絵を描いたり、創作ができるスペースがほしい(汚してもいい場所)
- ・インスタ、文化カードの利用
- ・大人から子どもまで楽しめる公園を作る
- ・大きな祭りを新しく作る
- ・野外映画上映みんなで集まる場所

- ・ジョイフルホンダと連携して、工作、DIY、アトリエなどが出来る場所

- ・音楽に親しむ場所
- ・カルチャースクール
- ・水遊びができる場所

くつろぐ

- ・いろいろな場所に椅子とテーブルが置けるような空間を生み出す
- ・360度見渡せる空間で、ヨガ、読み聞かせなどを聞く
- ・ダラダラ過ごせる場所
- ・屋上でイベント、フリマ、BBQ、レストランなど

- ・カラオケがしたい
- ・映画が見れるといい
- ・温水プールは、カリビアンビーチのようなレジャー要素も取り入れたい
- ・ジムやサウナもついていたらいい

- ・昼寝したい
- ・緑が欲しい
- ・中から外のにぎわいが見えてるといい

学ぶ

- ・iPadやインターネットを誰でも使えるようにする
- ・世代の違う人がお互いに学びあえる場所
- ・お年寄りの知恵袋に触れられる時間や空間
- ・遊び教室・瞑想ができる空間
- ・自分の興味以外のものが目に入る場所
- ・地域の歴史が学べる場所

- ・ピオトープを作って自然について学べる場所
- ・騒げて、気を使わずに喋れる図書館
- ・図書スペース以外にフリースペースの設置
- ・子どものワークショップをしたい
- ・託児所、エアリスとの連携

- ・スタジオ（音楽・ダンス）
- ・それを発表出来る場があればいい

食べる

- ・農家さんの余った野菜を一人暮らしの人や技能実習生などとシェアする
- ・B級品野菜市・外国人との交流
- ・キッチンスペースをつくり各国の料理を作ってもらおう
- ・休日一日食堂
- ・休日だけお店をもてる場所
- ・地域の人が運営するショップ
- ・週一回か月に一回地元の野菜か加工品を販売するマーケットを開催する
- ・料理の得意なお年寄りから若い人が料理を学ぶ

- ・喫茶、カフェがあるとよい
- ・農業のアピール（直売所や食べられる場所）
- ・東毛酪農との連携
- ・食育の場
- ・お惣菜を食べる

- ・農業レストラン
- ・来た人と囲める大きなテーブルがあるといい

グループA

▶発表者：Tさん

▶グループの発表まとめ

- ・地域性、雇用を生むような仕事に関する話が多かった。
- ・野菜が豊富、ブランドもある。農家さんの協力を得て、B級品や余った野菜を調理したり出来る様な食堂やレストランがあれば良い。太田市は外国人が多いので交流ができるような場所になっても良い（食事と絡めて）
- ・地域特有の料理をつくる。郷土食、地域色の強いものを生み出し、作り方を学ぶ。外国人や高齢者との交流。多世代活性化など
- ・外観に関して、景色がすごくいいので、屋上などで赤城山を見渡したい。眺めながらくつろぐ場所。生活の延長、生活が建物に組み込まれてほしい。そして、そこにつながりがあるほうがいい。
- ・単発のイベントだけでは飽きが来たり、その都度のループでしかなく、何度も来てもらうことにつながらないので、例えば子どもが疑似体験として働けたり、高齢者が面倒見たりなど・「孫がいるから」や「あの人がいるから」といった感じで、習慣的に長くここに来てもらえるように。
- ・お金がないと継続的な運営も厳しいと思うので、色々な人を巻き込んで、雇用などもできたりするといいいのではないかな。

▶司会からのコメントバック

- ・太田市で幼少期を過ごすだけだと、親や学校の先生以外の「大人」に会う機会がなかなか少なかったりするの、そこが人と出会う場であれば素敵だと思います。

グループB

▶発表者：Tさん

▶グループの発表まとめ

- ・新田地区の野菜を使って食事を提供したり、カフェを作ったりして、農業のアピールが出来る場所になっても良い、食事などの新田ブランドを確立し、広めていきたい。
- ・ピオトープを作って交流したり。
- ・作る予定のプールは、健康の部分とカリビアンビーチのようなレジャー部分もあるといい
- ・ジョイフルホンダで材料を買って、運んでここで何か作ったり出来る様なDIY施設などがあっても良い（子どものワークショップなどとの連携）
- ・エアリスが近くにあるので、エアリスのイベントに参加したい親御さんのために託児所を設けたり。
- ・行政センター、保健センターは集約すると、遠くなってしまう人もいるので、バスやタクシーなどを充実させてから集約したほうがいいのでは。
- ・ピオトープに関して、東側の川はいまはすごく荒れている。この地区は湧き水が豊かで本来水もきれいなので、美しいピオトープが出来たらいい。本当は橋もかかっているが、現在は外来種の草が生い茂っている。

▶司会からのコメントバック

- ・ジョイフルホンダには高い集客力があるので、そこに来た人を、この川を活かして、施設に引っ張ってこれるか？という視点は大切かもしれない。

グループC

▶発表者：Fさん、Hさん

▶グループの発表まとめ

- ・溜め池、運動場、ユーランド、ジョイフルとつながって、歩いてつながれる場所になるといいな。
- ・周囲の施設のハブになるような場所、動いている人がいて、それが街から見えるような状況があるとすごくいいのではないかな？
- ・もうすでにいろいろな施設が集まっているので、すべてが総合的に繋がって相乗効果が生まれるように運用出来るとう良い
- ・群馬は車社会なので、車で来るのは仕方ないが、安全に歩き回れるような歩者分離を。
- ・まわりの施設の利用者も集まってくつろげるような場所。
- ・人が集まるとにぎわっていると、また人が集まってくて見え方も変わってくると思う。

▶司会からのコメントバック

- ・車社会の群馬県・太田市で、この場所だけ“人がすごく歩いている”風景が見れるというのは面白いかもしれない。

当日の様子 (第1回)



(2) 第二回（生品地区）

会場：反町薬師跡 多目的集会所

参加人数：14名（ワークショップは【4つのグループ】に分けて実施）

ゲスト：塚越澄夫さん（反町 前区長）

トークテーマ：「反町館跡の歴史について」

タイムテーブル：

13:00-	挨拶（担当：エーアイラボオオタ押田）
13:10-	ゲストトーク（塚越澄夫さん）
13:30-	イベント趣旨の説明・複合施設とは？ （担当：エーアイラボオオタ亀井）
14:00-	休憩（15分）
14:15-	ワークショップ進め方の説明 （担当：片山昇平）
14:25-	ワークショップ
15:10-	グループ発表
15:20-	全体質疑応答
15:30-	終了（希望者は会場内の見学）

▶ゲストトーク内容の抜粋

- 昔の反町地区では、1月4日厄除け大縁日が新年お正月という感じで、子どもたちはこの日にお年玉をもらう習慣があった。
- 反町薬師は、塚越さんたち世代にとって昔は遊び場所。現在では、心のふるさとの様な場所になっている。
- 新田義貞公が鎌倉幕府討伐の思案をしている時、蛙の声があまりにうるさいので一喝すると鳴き止んだという「鳴かぬの池伝説」という逸話がある。
- 昭和31年9月30日 木崎町、生品村、綿打村が合併するにあたり、町名及び庁舎の位置等選考会議がこの場所で開かれ、新町名・中央公共地区構想など重要事項が話し合われた。
- 新町名である「新田」には、鎌倉時代末建武親政に身を捧げた義貞公と新田氏一族の歴史的背景になぞって付けられ、役場庁舎等公共施設を集約して、三町村民の融和と町発展を目指したと聞いている。
- そんな歴史的背景もありつつ、またこの場所で今回の様な会が開かれることにとても因縁を感じている。

▶ワークショップ

ワークショップは、以下の流れで実施。

項目	時間(分)	内容
アイデアを書き出す	20	アイデアを書き出す作業。 複合施設で「こんなことが出来たら良い」を5つのテーマに分けて書いていく。
チーム内 ディスカッション①	10	書き出したアイデアをチームで話し合う作業。
他グループの アイデアを確認	10	他グループがどんなアイデアを出したのか、1グループ3分程度の時間で確認。
チーム内 ディスカッション② 発表者決め	10	他グループの意見を見て、再度感じたことをチーム内で話し合う時間に合わせて、自分たちの意見をまとめ、発表の準備に入る。
発表	10	グループから代表者を決めて発表（1グループ3分） <ul style="list-style-type: none"> ・ 発表者の自己紹介 ・ グループアイデアの発表 （出たアイデアの抜粋・議論の中で特に盛り上がった内容の紹介等） ・ 司会からのコメントバック

動く

グループA

- ・ウォーキングコースを拡大してほしい
- ・周辺施設を巡る道を作る
(車椅子でも通れたり、走ったりもできる道が良い)
- ・健康測定ができて、健康のための運動ができる場所
- ・郷土芸能の練習の場所
- ・ミニラジオ局
- ・高齢者が自分を年寄りだと思わず積極的に動けるような街(施設)にしたい
- ・交通手段を考えてほしい
- ・産直品のフリーマーケットなど
- ・カウンセリングや相談事をきく人たちのためのレンタルルーム(心の健康)
- ・コワーキングスペース

遊ぶ

- ・ヨガ・フィットネス
- ・企画ボランティア
- ・芝居小屋(表現文化を伝える)
- ・市民農園
- ・保育園
- ・親子連れが気兼ねなく使える室内スペースと遊具
- ・藍染め(生葉染め)
- ・お茶、新田抹茶
- ・道の駅のような、足湯など

くつろぐ

- ・快適室温にしながら四季の変化が見えるガラス張りの展望場
- ・談笑しながら過ごせる場所、
- ・日当たりのいい場所で一日の時間の経過や天気を楽しめる場所
- ・屋外彫刻展示
- ・なんとなく集まれる場所、樹の下でコーヒーを飲み本を読む
- ・子どもを預けてくつろぐ場所
- ・親子で遊ぶ場と老人がくつろぐ場は分けて
- ・仮眠するための設備(酸欠バー、リクライニングシート)
- ・料理して食べられる場所

学ぶ

- ・学校帰りに学べる場所
- ・図書館は目的別でエリアを完全に分離したい(調べ物や読書、談話や運動、学習、親子の場など)
- ・郷土の歴史アーカイブの場所
- ・地域の情報掲示板(仕事やアルバイト募集の広告、地域の空き家情報など)
- ・企画運営に自分たちが参加できるシステム
- ・サークルなど、またその情報
- ・ワークショップの企画をしたい人たちが使える会議室がほしい
- ・子どもとお年寄りの交流が出来る場所
- ・おはなし会(朗読会)が開催出来る様なホールが欲しい

食べる

- ・地元野菜、肉類を使ったレストラン
- ・高齢者が運営する老人食堂
- ・おばあちゃんからママへ料理を教えられる場所
- ・女性向けのおしゃれなレストラン
- ・ドックカフェ
- ・ちょっと集まって食べる場所
- ・サークル活動のあとに食事ができる場所
- ・値段は控えめでリピートしたくなるレストラン
- ・焼きまんじゅう屋
- ・インスタ映えするカフェ(値段は抑え目で)
- ・生産、加工、販売、六次化の店
- ・天然酵母を使ったパン屋

グループB

- ・犬連れがみんなで散歩出来る道
- ・ドッグヨガなど
- ・図書館までの散歩道、歩きながら運動できる施設などあったら良い
- ・足つぼマッサージ
- ・フットサルコートがほしい
- ・多くの人を集める為、駐車場を整備し 周辺道路の渋滞を解消したい
- ・ボルダリングジムなど

- ・野外フェスがしたい
- ・清水公園みたいな水とアスレチックがある場所
- ・覆袋を持って星空を見上げられる場所
- ・お年寄りが子どもに昔の遊びを教えられる場所
- ・子どもも遊べるスケートリンク
- ・(調整)池で釣りがしたい
- ・明るい公園、広い公園(長い滑り台、長いワンドイ)
- ・高崎のケルナー広場のような公園
- ・調整池を活用して、自然の整備と公園を設置してほしい

- ・お風呂カフェ
- ・上毛三山が見渡せるような屋上庭園がほしい
- ・新田グラウンドのイベント(行事)まで見渡せるようなガラス張りのフロアがあると良い
- ・天井の高いアトリウム
- ・クリスマスを楽しめるような大きな木など
- ・水を使ったランドスケープを
- ・敷地東の大川にある「まほろば橋」を整備して、水の流れが見える様な場所がほしい

- ・職業体験の場
- ・現新田図書館の新田町資料(閉架書庫)を展示したい
- ・旧新田郡の歴史の拠点としての場所
- ・音楽スタジオの併設
- ・不登校、引きこもりのためのフリースクール
- ・田畑も多いので、農作物作り体験
- ・新田地区の歴史を集めた郷土資料室を図書館に併設したい
- ・各ジャンル別にフロアを分けて、深く学べる場所にしたい
- ・異文化交流がしたい
- ・イベントや講演会が出来るスペース

- ・カフェ、くつろぎスペース
- ・東毛路農、バーベキュー広場
- ・みんなで朝ごはんや夕ごはんが食べられる場所
- ・お酒、酒造の復活
- ・地産地消のレストラン
- ・ビアホール
- (木崎音頭が合唄できるような)
- ・茨城の大洗から鮮魚を持ってきて美味しい魚が食べられる。

グループC

- ・ジムがあるといい
- ・ヨガができる場所がほしい
- ・ゴーカート乗り場

- ・子どもが遊ぶ場所
- ・ドローンを飛ばせる場所があったら良い
- ・映画館がほしい

- ・カフェでくつろぎたい
- ・温泉がここにもほしい
- ・マッサージを受けられる場所がほしい
- ・この場所にしかできない特別な居場所がほしい

- ・図書館に工房が併設されると良い
- ・3Dプリンターなどの新しい機器を充実させたい
- ・役割をつくって市民が建物を支える雰囲気
- ・農業と工業が太田(新田)の誇りでもあるのでそこを絡めたい。

- ・飲食OKのスペースは嬉しい
- ・レストランは欲しい

グループD

- ・安くトレーニングできるジム
- ・若い人を集めるヨガ、綺麗なシャワールームも重要。
- ・運動施設はライザップなど外部に入ってもらったらどうか?
- ・駐車場は大切だと思っている
- ・市民会館も出来てイベントも増えたけど、駐車場がわかりづらい、入りづらい。
- ・デザインも大切とは思いますが、利用者の動きをよく考えてほしい(駅前図書館の中途半端な柵?仕切りで怪我をしそうになった)

- ・小さな映画館(深夜シネマなど)
- ・イベントを沢山やって欲しい
- ・音楽イベントと飲食イベントの組み合わせなどでもできる様に
- ・ミドル世代が積極的に参加できるイベントや仕組みがあるといい(今はそれがないからその世代はみな市外に出てしまう)

- ・図書館で飲み物が可なのは利用条件として嬉しい
- ・足湯がほしい。
- ・敷地東の川を利用した親水公園ができるといい
- ・足利フラワーパークのような名所になるといい
- ・夜はライトアップされたりして安心して散歩が出来る場所になるといい

- ・インターネット環境(Wi-Fi)は充実させて欲しい
- ・漫画やマニアックな本でも、たくさんの方がおいてある図書館にしてほしい
- ・幼児から大学生まで幅広い年代の人が学び 見える教室(学校の宿題を教えてくれる人がいたり)
- ・スキルを持っている人が講師をする場所があるといい(講師グループなどを編成して欲しい)

- ・道の駅のような、地元の野菜や産物が食べられたり手に入る場所(日本酒やビールなども)
- ・地元野菜を使った美味しいカフェ
- ・キッチンカーがゲリラ的にやってくる場所が欲しい
- ・地元のお母さんたちが調理学校の生徒さんたちと作る、土日朝定食食堂などが欲しい

グループA

▶発表者：Oさん

▶グループの発表まとめ

- ・近い内にカウンセリングなどで起業したいと考えているが、これから起業したいと思っている人はこれから増えてくるはずで、そういう人たちが集まれる場所が必要だと考えている。
- ・グループでは、プロの人に入ってもらうより、「市民の有志」が集まって何かできる場所があるといいという意見が多く出た。
- ・「場所」を作っていけたら良い。子ども連れが安心して遊べたり、親子の場所がちゃんとあったり、お年寄りは人と話したいという人が多いので、特に目的がなくても集まれる場所があるといいのではないかと。
- ・自然のなかでくつろげたり、リラックスできる場所が欲しい。くつろぎの場は特に大切なのではないかと考えている。
- ・都会では、酸素バーというものがあるが、仮眠室が最近はやっている。忙しい人がここでくつろいで休んでもらったりすると、子どもやお年寄り以外の世代も積極的に集められるのではないかと。
- ・外にずっといるのはカラダが辛いので、内部で、光や、自然を感じられる場所を作ってもらえたら、お年よりも含めているいろいろな人が長く滞在することができるのではないかと。
- ・人だけでなく犬などのペットも快適に過ごせると良いという意見もでた。(ドッグランなど)
- ・自分たちが作った品を自分たちで販売する場所、食堂のようなものも欲しいという意見がでた。
- ・多目的でフレキシブルな特に機能に縛られていない「場所」を市民が自分たちのアイデアで使っていくというイメージ。

▶司会からのコメントバック

- ・ソフトの部分を、外部の人が作り上げるのではなく、中の人たちの参加によって作り上げていくという過程によって場所が出来上がっていくという視点はとても面白いと感じた。

グループB

▶発表者：Iさん

▶グループの発表まとめ

- ・まわりからは、太田は子育てがしやすい場所だと羨ましがられるが、実際に住んでみて、近くに公園があるわけでもないし、そうでもない。やはり身近にそういった場所が何かあるといい。
- ・グループでは「地産地消」や「東毛酪農」というキーワードがでた。
- ・仕事をしている母親たちは、毎朝晩のご飯の支度がかなり大変。おじいちゃんおばあちゃんが側にいればなんとかできる家もあるだろうが、そうでない人達もいて、スーパーのお惣菜とかに頼ってしまう。そんなときにたくさん作った料理をおすそ分けしてもらえたり、食べたりできる食堂というものがあったら良いと思う。朝ごはんをそこで食べられたり等
- ・ドッグランというのはあったら良いなと思う。
- ・調整池とまほろば橋のあたりはもったいないので、整備してホテルがみれる水場などがあったら良いなと思う。
- ・お風呂で本を読んだりとかできたら楽しそう

▶司会からのコメントバック

- ・地域のキッチンや食卓という場所としての機能という発想が新しい。その画をイメージするだけでも、とっても温かい場所になっているイメージが湧く。

グループC

▶発表者：
Kさん

▶グループの発表まとめ

- ・小さな映画館があったらいいのではないかな？
(大きいものではなく、小さくても昔の映画をコンスタントなペースでやったりする映画館など)
- ・自分のようなことをやっている人たちがスキルを発揮するワークショップの場所などが欲しい。
- ・図書館は、ぜひマニアックな本も含めてたくさんの本を入れてほしい。今の図書館よりは増やしてほしい。
- ・足湯とかあれば色んな人が気軽に立ち寄れるのではないかな。
- ・ヨガなどもいいが、ちゃんとシャワールームなどがついた発展型の汗をかく場所がほしい。
- ・営業時間はぜひ長くしてほしい。特にモーニングの時間があるといい。
- ・ミドル世代の参加できるイベントがたくさんあると盛り上がるのではないかな。その世代は、市外に出たがっている気がする。

▶司会からのコメントバック

- ・営業時間を、朝早くや夜遅くと振り切るのは良い。意外とモーニングや夜遅くまでやることでの需要は周りにそういったお店が無いからこそ出来る気がする。

グループD

▶発表者：
Sさん

▶グループの発表まとめ

- ・新田エリアにも色々なところがあるので、地域的に繋がれる場所がいい(人も周囲にある施設的にも)
- ・新田に住んでいて感じると、太田の人はあまり新田には来ない。そういう人たちがこのエリアに来るためにも、新田にしかないスペシャル(特別)なものがあるといい。
- ・いい名称をつけると愛着が生まれることがあるのではないかな

▶司会からのコメントバック

- ・新田エリアにしかない特徴を見つけ、それをアピールする活動は重要。親しみやすい場所の名称などから話題性が生まれるのも良い。

当日の様子 (第2回)



(3) 第三回（木崎地区）

会場：しげるテック株式会社 社員食堂スペース

参加人数：8名（ワークショップは【2つのグループ】に分けて実施）

ゲスト：田村博様（田村工業株式会社 代表取締役）

トークテーマ：「祭りで培われた木崎人のDNA」

タイムテーブル：

13:00-	挨拶（担当：エーアイラボオオタ押田）
13:10-	ゲストトーク（田村博さん）
13:30-	イベント趣旨の説明・複合施設とは？ （担当：エーアイラボオオタ亀井）
14:00-	休憩（15分）
14:15-	ワークショップ進め方の説明 （担当：片山昇平）
14:25-	ワークショップ
15:10-	グループ発表
15:20-	全体質疑応答
15:30-	終了（希望者は会場内の見学）

▶ゲストトーク内容の抜粋

- 木崎のルーツとは?という問いに対し、多分ほぼほとんどの木崎に住む人たちは異口同音に「木崎音頭祭り」と答える。
- 年配の方の中には 木崎音頭のメロディーが流れると軽く踊りだす人もいるくらい街の文化として染みついている。
- その歴史は、宿場町として栄えた木崎宿にルーツがある。
- 最盛期には 60 件の宿場があったと言われる旅籠宿であった木崎宿だが、それ歴史は当時の越後からこの木崎に移住して働いていた「飯盛女」によって支えられていた。
- 「木崎音頭」のルーツは、彼女たちのその過酷な暮らしと寂しさから故郷をしのび、故郷の宴席での記憶をさかのぼり、今の境遇を歌詞にして口ずさんだものが始まりと言われている。
- そんな哀歌を街のアイデンティティにしてしまう、ハートを持っているのが木崎
- 旅籠時代に越後を中心とした外からの文化が入ってきたのもあり、それを受け入れて街の文化にしていく土壌が木崎には備わっている。
- 祭りごとや楽しいことにのる「ノリ」が備わっているのが木崎
- 現在、田村さんは木崎祇園祭というお神輿祭りを半世紀ぶりに復活させ、実施している実行委員会で渉外役を担当している。今年も開催予定。

▶ワークショップ

ワークショップは、以下の流れで実施。

項目	時間(分)	内容
アイデアを書き出す	20	アイデアを書き出す作業。 複合施設で「こんなことが出来たら良い」を5つのテーマに分けて書いていく。
他グループのアイデアを確認	10	他グループがどんなアイデアを出したのか、1グループ3分程度の時間で確認。
チーム内ディスカッション①	10	書き出したアイデアをチームで話し合う作業。
チーム内ディスカッション② 発表者決め	10	他グループの意見を見て、再度感じたことをチーム内で話し合う時間に合わせて、自分たちの意見をまとめ、発表の準備に入る。
発表	10	グループから代表者を決めて発表（1グループ3分） ・ 発表者の自己紹介 ・ グループアイデアの発表 （出たアイデアの抜粋・議論の中で特に盛り上がった内容の紹介等） ・ 司会からのコメントバック

グループA

動く

- ・稼げる施設にしたい
- ・ジョイフルにはない利点をつくり、人を呼び込む
- ・孤独を感じている老人に対してなにか
- ・団塊の世代にたいしてアプローチ
- ・団塊の世代が働けたりする場所
- ・安く貸せるテナントを
- ・稼げる施設にするために、発電所などを
- ・水を利用した発電で持続可能社会へ
- ・食品廃棄物を利用したバイオマス発電
- ・食品のリサイクルや、プールの熱源を作る
- ・ものづくり太田の電力をつくる
- ・コジェネの熱源で人を呼ぶ温熱プール

遊ぶ

- ・工作室、ものづくり拠点
- ・マーケットなどでの交流
- ・ドローンの競技場
- ・こどものためのおもちゃを販売や展示するところ
- ・何でも出来るフリースペース

くつろぐ

- ・うたた寝スペース
- ・サウナ、温泉
- ・新田エリアは湧水の豊かな土地なので、水に関する場所にしてほしい

学ぶ

- ・本屋さんが欲しい
- ・地域の会社を知ってもらえるような場所
- ・有料で見学を受ける
- ・セミナーができる場所
- ・受発送できる起業家向けスペース(コワーキングスペースの要素)
- ・歴史のガイダンスをしてくれる場所
- ・日本中から見学に来てくれるような施設にしてほしい
- ・子どもたちが地元を学べるような場所
- ・新田音頭などで地域資源での教育ができる場所
- ・暮らしの知識(よろず相談スペース)

食べる

- ・地産地消レストラン
- ・キッチン付きパーティスペース
- ・わざわざ来てでも食べたいようなレストラン
- ・農産物を料理できる場所
- ・地場の野菜を食べたい
- ・川床(京都)みたいなお店

グループB

- ・なんのためにプールを作るのかよく考えたほうがいい
- ・ゴルフレッスンなどあったらいい
- ・外の空間で、世代を超えたアートづくり
- ・周囲がグラウンドなので類似の施設は、これ以上必要なのか?
- ・バスの運行をしてほしい
- (将来的には太田との間で自動運転など)
- ・日常的な雰囲気、田畑の多い環境にあっていて、何年経っても人々に愛される施設

- ・機能は絞ってほしい
- ・世代間が交流出来る様な何かがあって欲しい
- ・シュミレーションゴルフ
- ・バーチャルゲーム
- ・シニアの頭の体操が出来るコンテンツ(麻雀大会など)
- ・アートギャラリー、スタジオ
- ・子どもの室内遊び場
- ・ドッグラン

- ・ハンモックのある空間
- ・観葉植物をたくさん取り入れたり、緑あふれる空間づくり
- ・温泉と読書を絡めたい
- ・複合施設は出会いの場所、行くと新しい発見がある場所であってほしい
- ・シニアが楽しめるサークルを作って欲しい
- ・自然の中でくつろげる空間づくり
- ・日光を楽しめるラウンジ
- ・仮眠室があるといい
- ・夜の星を眺められるラウンジ
- ・子ども一時預かり所があると良い

- ・太田の作家さんの作品を展示、販売出来る場所
- ・地元の伝説や歴史を知れる場所
- ・1回ではなく、継続して10年20年続いていくようなプログラムを行っていく
- ・河原などを使った外でのワークショップが出来る場所
- ・文化人(なるべく町にいる)を呼んで、子どもを中心とした、遊びながら学べるワークショップなど(例えば、書道の先生を呼んできて、一人一文字書きながらそれを集めてアート作品にしたり等)

- ・ドリップにこだわったコーヒーが飲みたい
- ・名物が食べられる(オッキリコミ、太田焼きそば)
- ・独自のビールと食べ物
- ・ジビエ
- ・BBQ

グループA

▶発表者：Oさん

▶グループの発表まとめ

・2011年に国土の長期展望というものがでてきているのだが、それによると、将来的にほとんどの町で人口が半分になる。太田の街なかはなんとか持つだろうが、この新田エリアは危ない。そうすると、ここに住み続けられない。それは嫌なので、今日ここに参加した。

・思うのは、お金を稼げる施設にしなくてはダメだということ。お金のかかるばかりの施設はダメだと思っていて、だからバイオマス発電をすると良いと思う。バイオマス発電には水が必要だが、この新田は大川や大間々扇状地からの湧水もある、水に関係する場所である。なおかつ、サッポロビールやAGF、農地の廃棄物など、バイオマスがいっぱいあるところ。この捨ててるところを利用して、ものづくり太田のための電力を作り売ると、プールの熱源など、コジェネシステムで安く運営していけるのではないか。

・あとは、本屋がない。あっても小さいので本屋が欲しい。

・また、ジョイフルには食べるところがないので、ジョイフルに来たついでに食べに寄れる地産地消レストランがあるといい。

・駐車場もすぐ足りなくなる状況があるので、ちゃんと計画して欲しい。この地域を是非盛り上げてほしい。

▶司会からのコメントバック

・施設でちゃんとお金を循環させていく＝「稼ぐ」という発想はこれまでに無かった。継続していくためには、とても重要な視点だと感じた。必要になるエネルギーを施設内で作るというアイデアもとても斬新。

グループB

▶発表者：Yさん

▶グループの発表まとめ

・グループでは、自由に思いついたことをアイデアとして出した。麻雀などお年寄りが元気に過ごせたり、子どもたちが学びながら遊べたりなどと、色々と案はでたが、やはりこういうものを永続的に、長く続けていける仕組み作りが一番大切なのではないか？という話になった。

・また、周囲を公園にして、豊かに過ごせる場所でご飯など食べられたり、食べられる物にしても、ジビエや地元のコーヒー屋さんなど、他にはないようなものを提供するべき、という話になった。

・隣のグループの話聞いた後は、やはり自分たちの身の丈にあった建物、そんなに大きな施設ではなく、使いやすい建物にし、50年後でも使い続けられるような施設にするために、自分たちで建物を運営したりエネルギーをまかなうということが大切なのではないかという議論になった。

▶司会からのコメントバック

・創る前から、未来にとってこの場所が「どんな場所として存在するか？」という観点で議論をしていたのが印象的だった。そして、本来そうあるべきなんだと改めて感じた。

当日の様子 (第3回)



7. テーマ別 主要意見のピックアップ

テーマ別 主要意見のピックアップ

	仕組み	機能面
動く	<ul style="list-style-type: none"> ・稼げる施設にしたい ・安く貸せるテナント（ブース）があると良い ・稼げる施設にするために、発電所などの設置を ・食品廃棄物を利用したバイオマス発電 ・食品のリサイクルやコジェネの熱源でプールの熱源を作る 	<ul style="list-style-type: none"> ・ジム →ヨガやボルダリング、サウナ、健康測定などの体を鍛える以外の目的で人が来なくなる機能がついた場所 ・周辺施設を巡ったり、景観を楽しめる、散歩、ジョギングコースの設置
遊ぶ		<ul style="list-style-type: none"> ・創作スペースの設置 →自由に絵を描いたり、創作ができるスペースが欲しい(汚してもいい場所) →ジョイフルホンダと連携して、工作、DIY、アトリエなどが出来る場所 ・小さな映画館(深夜シネマなど)、映画館がほしい ・寝袋を持って星空を見上げられる場所 ・親子連れが気兼ねなく使える室内スペースと遊具 ・こどものためのおもちゃを販売や展示するところ ・ドローンを飛ばせる場所
くつろぐ	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館で飲み物が可なのは利用条件として嬉しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・映画が見れるといい ・昼寝・仮眠がしたい →仮眠するための設備(酸素バー、リクライニングシート) ・リラックス →緑が欲しい →日当たりのいい場所で一日の経過や天気を楽しめる場所 →カフェでくつろぎたい、足湯が欲しい →マッサージを受けられる場所がほしい等
学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史に触れる →旧新田郡の歴史の拠点としての場所 →新田地区の歴史を集めた郷土資料室を図書館に併設したい →郷土の歴史アーカイブの場所 →新田音頭などで地域資源での教育ができる場所 ・世代間の交流 →世代の違う人がお互いに学びあえる場所 →お年寄りの知恵袋に触れらる時間や空間 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット環境の充実 →iPadやインターネットを誰でも使える様にする →インターネット環境(Wi-Fi)は充実させて欲しい ・3Dプリンターなどの新しい機器を充実させたい ・図書館としての機能 →騒げて、気を使わずに喋れる図書館 →図書スペース以外にフリースペースの設置
食べる	<ul style="list-style-type: none"> ・東毛酪農との連携 ・地域住民の参加 →休日だけお店をもてる場所、地域の人が運営するショップ →高齢者が運営する老人食堂、おばあちゃんからママへ料理を教えたりする場所 →地元のお母さんたちが調理学校の生徒さんたちと作る、土日朝定食食堂などが欲しい →料理の得意なお年寄りから若い人が料理を学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・来た人と囲める大きなテーブルがあるといい ・みんなで朝ごはんや夕ごはんが食べられる場所 ・キッチン付きスペース →キッチンスペースをつくり各国の料理を作ってもらおう →キッチン付きパーティスペース →農産物を料理できる場所

テーマ別 主要意見のピックアップ

コンテンツ (ソフト面)

参加者からの要望/提言

動く

- ・産直市場やマーケットの開催
- ・高齢者が働ける場所
- ・高齢者が子どもとコミュニケーションが取れる場所
- ・何か皆んなで出来る仕事(単純作業)があってそこにふらっと参加できる(ボランティア体験)

- ・現地までの二次交通や駐車場の充実
→バス運行をしてほしい
→駐車場の充実
- ・周囲がグラウンドなので類似の施設は、これ以上必要なのか?
- ・(継続するために)稼げる施設にしたい

遊ぶ

- ・イベント
→大きな祭りを新しく作る
- 野外映画上映みんなで集まる場所
- 野外フェスがしたい
- イベントを沢山やって欲しい
- 音楽イベントと飲食イベントの組み合わせなどもできる様に
- ・シニア世代の参加
→ミドル世代が積極的に参加
- お年寄りが子どもに昔の遊びを教えてあげられる場所
- シニアの頭の体操が出来るコンテンツ(麻雀大会など)

- ・調整池を活用して、自然の整備と公園を設置して欲しい
- ・清水公園みたいな水とアスレチックがある場所
- ・明るい公園、広い公園(長い滑り台、長いウンテイ)
- ・世代間が交流出来る様な何かがあって欲しい
- ・保育ルーム
- ・親子連れが気兼ねなく使える室内スペースと遊具

くつろぐ

- ・屋上でイベント、フリマ、BBQ、レストランなど
- ・シニアが楽しめるサークルを作って欲しい
- ・360度見渡せる空間で、ヨガ、読み聞かせなどを開く

- ・新田エリアは湧水の豊かな土地なので、「水」に関する場所にしてほしい
- ・敷地東の大川にある「まほろば橋」を整備して、「水」の流れが見える様な場所がほしい
- ・景観
→上毛三山が見渡せるような屋上庭園がほしい
- 新田グラウンドのイベント(行事)まで見渡せるようなガラス張りのフロアがあると良い
- 天井の高いアトリウム
- ・複合施設は出会いの場所、行くと新しい発見がある場所であってほしい

学ぶ

- ・ワークショップ、イベント
→田畑も多いので、農作物作り体験
- 河原等を使った外でのワークショップが出来る場所
- ・子ども向けのアフタースクール、フリースクール
- 不登校、引きこもりのためのフリースクール
- 学校帰りに学べる場所
- 文化人(なるべく町にいる)を呼んで、子どもを中心とした、遊びながら学べるワークショップなど
- 子どもたちが地元を学べるような場所
- 職業体験の場

- ・企画運営に自分たちで参加できるシステム
- ・サークルなど、またその情報
- ・ワークショップの企画をしたい人たちが使える会議室がほしい
- ・図書館に工房が併設されてると良い
- ・おはなし会(朗読会)が開催出来る様なホールが欲しい

食べる

- ・地産地消、地場のモノを食べる
- 地産地消レストラン、地元野菜を使った美味しいカフェ、地場の野菜を食べたい
- 道の駅のような、地元の野菜や産物が食べられたり手に入る場所(日本酒やビールなども)
- 名物が食べられる(オッキリコミ、太田焼きそば)
- 料理の得意なお年寄りから若い人が料理を学ぶ

- ・飲酒OKな施設
→ビアホール、独自のビールと食べ物、お酒、酒造の復活
- ・ドリップにこだわったコーヒーが飲みたい

まとめ

今回のワークショップを通じて、大きく以下3つの需要を感じさせる意見が出ました。

① エリア特性を活かした場所づくりのニーズ

建設予定地の特性である湧水や予定地にある河川を活かしたランドスケープの設計や、周辺施設との連携を図った場所作りの需要を感じさせる意見が多く見られた。

ex..

- ・敷地東の大川にある「まほろば橋」を整備して、「水」の流れが見える様な場所がほしい
- ・ジョイフルホンダと連携して、工作、DIY、アトリエなどが出来る場所
- ・上毛三山が見渡せるような屋上庭園がほしい

② 地域巻き込み・住民参加型施設としての機能と企画ニーズ

地域の歴史を学ぶ、祭りや催事毎から地域が持つ資源に触れるといったその場所が持っている資源に触れられることの需要と、高齢者の活用や世代間交流といった、地域住民同士の触れ合い・参加によって、一つのコンテンツを作っていきたいといった需要を感じさせる意見が多く見られた。合わせて、大小様々なイベントを受け入れる多目的スペースの必要性も感じた。

ex..

- ・郷土の歴史アーカイブの場所
- ・新田音頭などで地域資源での教育ができる場所
- ・高齢者が運営する老人食堂、おばあちゃんからママへ料理を教えたりする場所
- ・地元のお母さんたちが調理学校の生徒さんたちと作る、土日朝定食食堂などが欲しい
- ・音楽イベントと飲食イベントの組み合わせなどでもできる様に
- ・世代の違う人がお互いに学びあえる場所

③ 「地産地消」をテーマにした機能と企画ニーズ

太田市産の「食」をテーマにしたレストランや産直市場・マルシェなどの需要を感じさせる意見が多く見られた。

ex..

- ・地産地消、地場のモノを食べる
- ・地産地消レストラン、地元野菜を使った美味しいカフェ、地場の野菜を食べたい
- ・道の駅のような、地元の野菜や産物が食べられたり手に入る場所(日本酒やビールなども)
- ・名物が食べられる(オッキリコミ、太田焼きそば)